

## GNG グローバルニュース

### Market News

#### COVID-19 収束後も食料品のオンライン購入は継続するか

[2020/5/22] [foodnavigator-usa.com]

調査会社 Escalent によると、2020年3月と4月の2か月間で、米国消費者のほぼ4分の1(24%)が食料品をオンライン購入していた。

この調査は4月22日から24日にかけて行われ、少なくとも週に1回以上食料品を購入する米国の消費者1,500人を対象とした。

男性と女性では大きな差は見られなかったが世代間では大きな違いがあった。過去1ヶ月間で、テクノロジーに精通しているZ世代(1990年代後半~2000年代生まれ)の32%がオンラインで食料品を購入していた。ミレニアル世代(1981年~1996年生まれ)は25%、その他の世代は20%台前半だった。

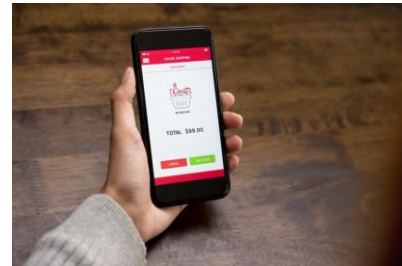
オンラインでの食料品購入先でトップとなったのは大手スーパーマーケット Walmart で、調査対象者の47%が Walmart から購入していた。米国オンライン売上高の54%をしめる Amazon は、Prime Now、Amazon Fresh、Prime Pantry など複数のチャネルで食料品を取り扱っているにもかかわらず、19%に留まっている。

考えられる理由として、Walmart は11,000を超える実店舗を抱えているため多くの消費者に馴染みがある。消費者の本能として、まずはいつも訪れている馴染み深い実店舗のブランドに目を向けやすいことが大きな強みになったといえる。

Walmart はさらにオンライン顧客満足度もリードしている。Amazon の満足度が68%であったのに対し、Walmart では約80%がやや満足、または非常に満足という結果だった。

そしてこの調査結果では、COVID-19 収束後も引き続きオンラインでの食料品購入が続いていくことが示唆されている。調査対象者の38%が、COVID-19 後もオンラインでの購入頻度は同程度、もしくは増加すると信じている。さらに27%の消費者が、オンラインでの購入は僅かに減少するかもしれないが定期的な使用を継続すると回答した。

Escalent によると、大多数の消費者は実際に陳列されている商品を見て選ぶことを好むため、長期的にみて実店舗が無くなることはないという。



#### ナチュラルプロダクトの売上、前年比で大幅に増加

[2020/6/4] [newhope.com]

米国調査会社 IRI と SPINS のレポートによると、消費者は、COVID-19 前後に関係なく前年同時期より多くのナチュラルプロダクトを購入していることが明らかになった。

IRI によると、ナチュラルプロダクトの売上は1年以上前から伸び続けており、2020年3月中旬の売上は前年比で78%の成長となった。SPINS によると、ナチュラルプロダクトの過去1年間の売上は小売総売上高の8.4%を占めており、ノンナチュラル・従来製品を上回っている。これは製造業者と小売業者にとって大きなチャンスであるという。

買いただめがピークに達した期間も消費者はナチュラルプロダクトを購入し続け、実際その数は倍増している。彼らはさまざまな成分を探し、そして回避し、ラベル表示や認定を慎重に調査するなどの戦略を通じて好みの対象を広げている。

ひとつの重要な変化は、消費者が特にe-コマース(電子商取引)にシフトするようになったことだ。e-コマースにおける1人あたりのナチュラルプロダクト購入額は前年と比較して15%増加している。これは食料品チャネルとほぼ同じペースである。



消費者は今後、COVID-19 に起因する工場閉鎖などの影響による発売中止や品切れ、価格の高騰に直面していただろう。IRI と SPINS では、消費者がより大きなパッケージサイズ(お徳用)、プライベートブランド、および厳しい予算に合った製品を探すようになってきている。特に、プライベートブランドは前回の不況時と同様、非常に大きな成長率を示している。例えばビタミンおよびミネラルの自社ブランドの売上は、カテゴリー全体が前年比 41% の成長だったのに対し 1,286% 成長している。

本レポートにおける、成功のための 3 つのコア戦略は以下の通り。

- ・顧客とナチュラル食品とのかかわりを良く理解し、顧客からの信頼を維持しつつシェア拡大する
- ・潜在的な新規顧客を特定し、彼らの行動を深く理解し、コンバージョン戦略を構築し、ターゲットを絞ったマーケティングを通じて積極的に働きかける
- ・流動的なチャネル戦略を定期的に改善し、実店舗と e-コマースの両方を対象とする状況の変化を反映する

## Products News

### 腸活による免疫サポートが 5 月の新商品の大半を占める

[2020/5/28] [nutraingredients-usa.com]

5 月の食品・飲料産業では、腸活による免疫の健康維持に焦点を置いた新商品が次々に登場している。

#### ・Muniq

腸の健康に力を入れる Muniq 社から、腸内細菌叢を改善するシェイクが発売された。消化されないままで大腸に届く、難消化性でんぷん(レジスタントスターチ)を配合し、健康的な腸内細菌叢の維持を促す。また、血糖値の管理、免疫力の強化など身体本来の能力を向上させる。難消化性でんぷんを 15g (1 杯分) 含有し、1 日に必要な食物繊維量の半分が摂取できる。フレーバーは、Vegan Chocolate、Vanilla Creme、Mocha Latte、Chocolate の 4 種類。同社オンラインショップにて、1 個 3.50 ドルで販売している。

#### ・FRISKA

ヘルス・ウエルネスの新ブランド、FRISKA から、腸の健康を維持し、免疫力を改善するサプリメント 10 種が発売された。同ブランドは、免疫細胞の 70~80% が腸に存在することに注目、科学的に実証された消化酵素やプロバイオティクスを独自にブレンドし、腸内細菌叢を応援する。10 種のサプリメントには、免疫力を促進する Immunity Boost、エネルギー源となる炭水化物、たんぱく質、脂肪の分解を促し、気分を向上、ストレスを低減する Mood Boost、オーガニックグリーンコーヒー豆から抽出したオーガニックカフェインを配合した Energy Boost、メラトニンやカモミールを配合し、睡眠の改善、リラクゼーションを促進する Nightly Reboot などがある。ドラッグストアの CVC や Whole Foods などにて、1 個 29.99 ドルで販売している。

#### ・SunISDIN

スキンケア商品を提供する ISDIN 社から、SunISDIN ソフトゲルカプセルが新発売された。同品は、飲む日焼け対策商品で、光老化を防ぎ、酸化ストレスを阻止、皮膚の健康を維持する。vitAox ULTRA (ビタミン D、C、E、リコピン、ベータカロテン、グリーンティー、グレープシードエキスなど強力な抗酸化剤を配合) を含有し、皮膚の弾力、輝きを改善する。各皮膚科やオンラインストアで、30 粒入り 49.95 ドルで販売されている。

#### ・Planetary

CBD 商品の新ブランド、Planetary から、独自の水抽出技術を用いてフルスペクトラムの CBDa (カンナビジオール酸) を配合した CBDa シリーズを発売した。水だけを使用するシンプルな抽出プロセスで、他のプロセスに比べバイオアベイラビリティが高いという。この特許申請中の抽出プロセスにより、CBD の酸性前駆体である CBDa が生成される。CBDa Softgels は、1 粒に 25mg の CBDa が含まれ、60 粒入り 79.99 ドルで販売されている。

#### ・Ancient Nutrition

サプリメントブランド、Ancient Nutrition から、土壌由来のプロバイオティクス(SBO) シリーズが発売された。SBO プロバイオティクス、オーガニックスーパーフードの発酵ブレンドを配合し、腸の健康や免疫

システムを応援する。また、プレバイオティクス、プロバイオティクス、ポストバイオティクスが同時に摂取できる(2020年5月26日号 GNG グローバルニュースを参照)。

・Yuno

ニューヨークに本拠を置く YUNO 社から、さまざまなシチュエーションに合わせて科学的に調製された YUNO BioTactical Drinks が発売された。プレバイオティクス、プロバイオティクスが配合され、水分補給、電解質バランスの調整、抗炎症作用の促進やストレス軽減、免疫促進に作用する。同ドリンクには、睡眠改善、ストレス低減、記憶力改善、エネルギー補給といったさまざまな目的に応じて、Dream、Zen、Focus、Uplift、Memory、Energy が用意されている。

・Swisse Wellness

サプリメントブランドの Swisse Wellness 社からは、Clinical Collagen+ Beauty Blends が発売された。グラスフェッド牛コラーゲン(1回分 10g)とバイオアクティブコラーゲンペプチドを配合し、皮膚や関節の健康維持をサポートする。特に、皮膚の弾力を改善し、シワやたるみを低減する。Chai Tea、Green Tea の2種類のフレーバーが揃う。スティックタイプで30本入り49.99ドルで販売されている。

・TB12

TB12 社は、アメリカンフットボールのスーパースター、Tom Blady 氏と、ビジネスパートナーの Alex Guerrero 氏が共同で創業したヘルス・ウエルネスブランドである。サプリメント会社、VitalFit 社との共同開発により Protect を発売。カラマツ、ベータグルカン、エルダーベリー、亜鉛、ビタミン C を配合し、日常生活やエクササイズからの回復を促進する。オンラインストアにて、60粒入り45ドルで販売されている。

## Science News

### ビタミン K2 と D3 の相乗効果でそれぞれの有効性が増幅

[2020/5/19] [nutritioninsight.com]

ビタミン D3 とビタミン K2 はそれぞれ、骨と心血管系をサポートするカルシウムのバランス調整に欠かせない栄養素として認知されているが、2つの栄養素の相乗効果により、それぞれの有効性が増幅する可能性が [Kappa Bioscience 社](#) (ノルウェー) の研究で示唆された。

ビタミン K2 商品を幅広く展開する Kappa Bioscience 社の研究プログラム、「The Perfect Pair」によると、ビタミン D3 はカルシウム結合たんぱく質のオステオカルシンとマトリックス Gla たんぱく質 (MGP) の生成を促進し、カルシウムの吸収を上げる。また、ビタミン K2 はこれらたんぱく質の活性化に必要なものであり、オステオカルシンと MGP が不活性のままである場合、カルシウムが血管内に蓄積、血管の石灰化など有害な影響を及ぼす。

ビタミン D3 は MGP の発現を促すがその活性化はビタミン K2 に依存し、K2 は石灰化の進行を緩め、動脈硬化を軽減することが示唆されている。ビタミン D3 と K2 の相乗効果を検証した試験では、2つの組み合わせは MGP の発現と活性化を増大し、また、D3 単独よりオステオカルシンの生成を促進することを示した。





## パン屑からビタミン C を生成、世界の食品ロスを救うか

[2020/5/25] [nutraingredients.com]

廃棄物であるパン屑を最終的にビタミン C に生まれ変わらせる可能性が米国の研究で示唆された。

USDA 内の研究機関、Agricultural Research Service (ARS) Centre の研究チームは、パン屑に含まれるグルコースを微生物の発酵プロセスにより、プラットフォームケミカル（基礎化学物質）である 2-ケト-D-グルコン酸 (2KGA) に変換、そしてそれをアスコルビン酸 (ビタミン C) などの物質に再生する技術を導き出した。

製造された食品が食べられないまま捨てられ、特にパンや焼き菓子などベイクド商品の食品ロスは世界的な問題である。

米農務省 (USDA) によると、一部は家畜の飼料に回されるが、年間 1,250 万トンの食パン、クロワッサン、バターロールなどが廃棄されるという。さらに研究が進めば、食品ロスの軽減につながる可能性も見えてくる。

2KGA は、洗剤添加物、セメント添加剤などとして利用されるが、その生産方法には、費用が掛かることや有害な酸化剤を使うなど多くの欠点があった。

ARS 研究チームが編み出した方法は、微生物のシュードモナス属である *Pseudomonas reptilivora* を用いるもので、原料はグルコースたっぷりのパン屑と、蒸留水、酵素だけとシンプルである。パン屑からの 2KGA の最大生産量は、142.81g/L で、生産効率は 3.02g/L/h、モル収率は 0.95 だった。

ARS の培養株保存施設には、世界中から集めた微生物のあらゆる属種が数万以上保存されており、*Pseudomonas reptilivora* は 1940 年代にコレクションに加えられた。本研究は [Biomass Conversion and Biorefinery](#) に掲載されている。



## ブリス菌が虫歯予防に有益である可能性、研究 2 件

[2020/5/26] [nutraingredients-usa.com]

ストレプトコッカス・サリバリウス M18 株 (BLIS M18)、通称「ブリス菌」の虫歯予防への有効性を示唆する研究 2 件が発表された。

ストレプトコッカス・サリバリウス菌は口腔内や喉に自然に存在する菌だが、中でも BLIS M18 は有害な菌の増殖を防ぐと考えられる特殊な菌株である。

1 件目の [in vitro 試験](#) では、浮遊性成長阻害試験により、歯周病を引き起こす菌として知られるアグリゲイティブクター・アクチノミセテムコミタンスとアクチノマイセス・ネスランディイに対する BLIS M18 とラクトバチルス・ロイテリの影響を検証した。これによると、2 つのプロバイオティクスのどちらもが菌の成長を抑える結果を確認したが、特に、BLIS M18 の方が抗菌作用は強かった。

また、別の [臨床試験](#) は、口腔内に黒い歯垢が発見された小児 54 人 (4~10 歳) を対象に行われた。BLIS M18 含有商品を 1 日 1 回、3 カ月間摂取する群 (28 人) と摂取しない群 (26 人) に被験者を割り付けた。試験開始前に、被験者全員に歯のクリーニングを行い、その後、3 カ月、6 カ月に黒い歯垢の発生を評価した。この結果、BLIS M18 摂取群では、3 カ月後に黒い歯垢が検出された割合は 21.2%、摂取しない群では 50% だった。また、6 カ月後になると、摂取群は 32.1%、摂取しない群では 53.8% から検出された。

研究者らは「BLIS M18 の摂取により、小児における黒い歯垢の形成が軽減された」と結論付けた。BLIS M18 は病原菌に抵抗するバクテリオシン (抗菌活性をもつタンパク質やペプチドの総称) や酵素を生成すると考えられるが、研究者らは今後、それらのメカニズムを探る研究を進めるとしている。



## 高脂肪乳製品がメタボリック、糖尿病、高血圧などのリスク低減の可能性

[2020/5/27] [nutraingredients.com]

世界中の約 15 万人を対象に行われた大規模観察研究によると、低脂肪ではなく高脂肪乳製品を 1 日 2 回以上摂取することがメタボリックシンドローム、糖尿病、高血圧、のリスク低減につながるという。

これまでに行われた研究でも同様の結果が示唆されているが、それらの研究は北米とヨーロッパに焦点を当てる傾向があった。

今回、幅広い国々での調査を行うため、世界各国から 35~70 歳の対象者を集めて活習慣などの要因と将来的な疾患や死亡率

の関係性を長期に渡り追跡調査する観察研究、PURE(PROSPECTIVE URBAN AND RURAL EPIDEMIOLOGICAL STUDY)に参加している計 21 ヵ国、約 15 万人の乳製品摂取量とメタボリックシンドロームの有病率および高血圧症、糖尿病との関連を評価した。

追跡調査期間は 9.1 年で、食物摂取頻度アンケートにより評価された。乳製品の項目には牛乳、ヨーグルト、ヨーグルトドリンク、チーズ、乳製品を使用した料理が含まれ、全脂肪または低脂肪(1~2%)に分類された。バター、クリームは一部の国では普及していないため別途評価された。個人の病歴、学歴、喫煙有無、身長体重や胴囲、血圧、空腹時血糖値などのデータも考慮された。

[BMJ Open Diabetes Research & Care](#) に掲載された調査結果によると、1 日当たりの平均総乳製品消費量は 179g で、全脂肪乳製品の消費量は低脂肪の約 2 倍だった。総乳製品摂取量が多いほどメタボリックシンドロームの有病率が低く、さらに低脂肪乳製品ではなく、全乳製品および全脂肪乳製品がメタボリックシンドロームの有病率低下と関連していた。

乳製品摂取量がゼロの場合と比較して、1 日につき少なくとも 2 サービング以上(1サービングは牛乳またはヨーグルト 244g、チーズ 15g として換算)の乳製品摂取で、メタボリックシンドロームのリスクが 24%低下し、さらに全脂肪乳製品のみの場合では 28%低下した。糖尿病、高血圧においても、全脂肪乳製品の摂取量が多いほど発症率が低かった。

これは観察研究のため、その原因を特定することはできない。しかし研究者らは、この結果が十分な規模の長期的試験で確認された場合、乳製品の消費量増加が世界的なメタボリックシンドローム、高血圧、糖尿病等の削減のための実行可能な低コストのアプローチになる可能性を示唆している。



## エンゾジノールが目の健康を維持する可能性

[2020/5/28] [nutraingredients-usa.com]

認知機能向上や抗酸化作用などで知られるニュージーランド産カシス抽出物や松樹皮抽出物(エンゾジノール)などを使用した認知機能サプリメントを製造する Arepa 社は、その成分が目の健康にも役立つと考えている。

同社の製品に使用されている、ニュージーランド産ラジアータ松樹皮(Pinus radiata)抽出物ブランド、エンゾジノール(Enzogenol®)における目の健康に関する研究が行われた。

Enzo Nutraceuticals、Canterbury Geriatric Medical Research Trust(ニュージーランド)などの研究チームは、平均年齢 82 歳の高齢者 100 人を対象に、ランダム化比較試験によりエンゾジノールの目の健康維持への有益性を検証した。

被験者を、エンゾジノール(480mg/日)とビタミン C(60mg)摂取群(54 人)とビタミン C のみ摂取する群(46 人)に割り付け、6 カ月間観察した。

この結果、ビタミン C のみ摂取する群の 19.1%に遠見視力の悪化が見られたが、エンゾジノール摂取群ではわずか 7.4%だった。つまりエンゾジノール摂取群は、遠見視力の改善、維持ともに、より優れていると考えられる。Enzo Nutraceuticals の研究者は「目の健康に対するエンゾジノールの作用メカニズムは、酸化ストレスの低下、微細血管の健康維持、血糖制御によるもの」と推察した。

本研究は [Food and Chemical Toxicology](#) に掲載されている。



## [代謝サインで地中海式食生活への遵守度を評価、CVD リスクを予測](#)

[2020/5/28] [nutraingredients-usa.com]

地中海式食生活の遵守度、また、地中海式食事に対する代謝反応は、代謝サインで評価できることが米国の研究で示唆された。

Harvard T.H. Chan School of Public Health、Broad Institute of MIT などの研究チームは機械学習モデルを用いて、心血管系疾患(CVD)予防における地中海式食生活の有益性を検証するスペインの PREDIMED 研究に参加した 1,859 人から血液を採取、代謝の過程で生成される代謝物質を分析した。

これにより、代謝サインとして 67 種の代謝物質が同定された。研究者によると、血中の代謝サインを測定することにより、被験者が地中海式食生活をどれだけ実践しているかを判別し、CVD リスクの軽減や死亡率の低下を効果的に評価できるという。

また、PREDIMED 研究においては、代謝サインの割合が高いほど、長期的に CVD リスクが低いことも確認された。さらに研究チームは、米国の Nurses' Health Study、Nurses' Health Study II、Health Professional's Follow-Up Survey に参加した 6,868 人からも血液を採取、代謝サインを測定した。

この結果からも、代謝サインの測定により、地中海式食生活への遵守度、CVD リスクの予測を評価できることを示唆し、スペイン、米国と地域は異なるが、同じ結果が確認されたことを強調した。

研究者は「これまでの研究において、被験者の食生活を評価する際、質問票による自己報告型データに頼ることが多く正確性が疑問視されていたが、代謝サインの測定でより正確なデータが採集できる」と説明した。本研究は [European Heart Journal](#) に掲載されている。



## Company News

### [Cargill 社、マイクロバイオーム研究開発で Eagle Genomics 社とプラットフォーム契約を締結](#)

[2020/5/21] [nutritioninsight.com]

世界に向けて食品、農産品、工業品などを提供する Cargill 社(米国)は、ライフサイエンス、マイクロバイオーム開発会社、Eagle Genomics 社(英国)と、複数年のプラットフォーム契約の締結に合意した。合意の内容については明らかにされていない。

Eagle Genomics 社は、企業商品のマイクロバイオームに対する影響評価などを行う企業で、同社の人工知能を備えた e[datascientist]プラットフォームは、Microsoft Genomics や GSK など世界的な企業に利用されている。今回の同意により、Cargill 社は、世界の拠点において e[datascientist]プラットフォームを展開し、多種多様なデータを整理、分析、また、新たな洞察を加え、同社のヘルステクノロジー事業を推進するものと期待している。

Cargill Health Technologies 社の Mike Johnson 氏は、「膨大なデータの整理、解析が進むことにより、動物や人におけるマイクロバイオームと消化、免疫の健康との複雑な関係をより深く理解できる。腸の健康は、今や大きな関心事で、健康的な腸内細菌叢の理解こそが、多くの疾患予防を実現させるだろう」と述べた。また、同社は Eagle Genomics のプラットフォーム導入により、バイオリジカル研究の進展がスピードアップし、サステナブルな農産品、機能食品分野の成長に拍車をかけることができると自信を示した。

また、Eagle Genomics 社 CEO、Anthony Finbow 氏は「Cargill 社のマイクロバイオームデータ解析に協力できることは嬉しい。私たちのプラットフォームが、人や動物の食品、栄養補助商品の未来に役立つことを期待している」と話した。





## Regulatory News

### FDA、パンデミックによる混乱回避でラベル表示要件に一時的柔軟性

[2020/5/22] [foodnavigator-usa.com](http://foodnavigator-usa.com)

COVID-19 感染拡大により食糧不足や流通の遅れなどが生じ、食品・飲料業界も混乱を極めているが、FDA(米国食品医薬品局)はその混乱を緩和し、経済へ負の影響を広げないため、アレルギー混入など食品の安全を損なわないという条件で、食品・飲料のラベル表示の要件に一時的に柔軟性をもたせる対応を決定した。



FDA が発行したガイダンスでは、「パンデミックという状況に関連し、食品・飲料サプライチェーンの崩壊が食品調達に及ぼす影響を最小限に食い止めるための措置である」とし、さらに「食品メーカーが最終商品の内容に若干の変更を加える必要があった場合、ラベル表示と内容に齟齬があったとしても、それが消費者の健康や食品安全性に害を与えないものであれば、取り締まりを控える」と説明している。

具体例として、野菜キッシュのラベルに表示されているにもかかわらずピーマンが入っていない、サンフラワーオイルの代わりにキャノーラオイルが使用されている、などを挙げた。また現在、小麦粉の漂白に使用するブリーチが不足しているため、ラベル表示を変更せずにアンブリーチドフラワー(漂白していない小麦粉)の代用を認めている。

### Kemin 社のユーグレナ由来サプリメント原料「BetaVia」が EFSA の安全評価を獲得

[2020/5/27] [nutraingredients.com](http://nutraingredients.com)

欧州食品安全機関(EFSA)は、食品原料、飼料などを世界に提供する Kemin Industries 社(米国)の免疫サポート商品「BetaVia Complete™」に対し、新規食品として安全性を認める評価を下した。これにより、Kemin Industries 社は欧州における同品の販売許可を得ることになる。



BetaVia Complete™ は、微細藻類ユーグレナ(Euglena gracilis ATCC PTA-123017)を原料に用いたサプリメント原材料で、免疫力の向上をもたらすと考えられるパラミロン(ベータ 1,3 グルカン)を豊富に含む(50%以上)ほか、たんぱく質、脂肪酸、ビタミン・ミネラル、カロテノイドを含有、免疫の健康に有益であるとして現在、大いに注目を浴びている。同製品は Kemin Industries 社が独自の製法で培養、乾燥粉末にしたものである。

免疫サポート商品分野では欧州市場が急成長を遂げ、世界市場の 4 分の 1 を占める。中でも、ベータグルカン市場は世界の 3 分の 1 を占めるほど躍進している。特に COVID-19 感染拡大の今、消費者のサプリメントへの関心は免疫維持に集中しており、免疫健康トレンドはこの先も継続するとみられる。

Kemin Human Nutrition and Health 社の Miguel Martinho 氏は、「米国では、今のところ、カプセルタイプで商品化されているが、今後は、飲料、パウダー、スティック、グミなど様々な形状の商品開発を行っていく」と話す。

### Netsle、プラントベースバーガーの名称を「Incredible burger」から「Sensational burger」に変更

[2020/6/2] [foodnavigator.com](http://foodnavigator.com)

オランダ、ハーグ地方裁判所は、米国 Impossible Foods 社による欧州連合(EU)商標規則第 9 条(2)(b)に基づく侵害の申し立てを受け、スイスの食品大手 Netsle 社のプラントベースバーガー Garden Gourmet Incredible burger の「Incredible」使用の暫定的な停止を命じた。

この判決は「Incredible」と「Impossible」の単語の文字数が同じであること、さらに両単語とも「I」で始まり「ible」で終わるため視



覚的類似性があり、EU 消費者を混乱させる可能性があることを理由としている。

Netsle 社はこれを受け、EU とオーストラリアで今年 4 月から「Incredible burger」の名称で販売している同商品名を「Sensational burger」に変更、さらに米国でも商標侵害の申し立てにより、「Awesome burger」へと名称変更した。

Netsle 社はこの判決を不服とし上訴する意向を示している。同社は 2019 年 3 月、「Impossible burger」の EU での商標登録が無効であるとして EU 知的財産庁に無効審判を請求しており、現在も進行中である。

### [米国 FTC、COVID-19 の根拠のない治療、予防を謳う製品の関連企業 35 社へ警告文書を発行](#)

[2020/6/4] [ftc.gov]

米国連邦取引委員会 (FTC) は 4 日、新たに 35 件の警告文書に関するプレスリリースを発表した。

同文書は、COVID-19 の治療、予防のための製品またはサービスを販売および配布する企業に 5 月 27 日付で送付された。これは COVID-19 禍における健康関連詐欺から消費者を保護する取り組みの一環として行われており、今回で 6 回目の警告文書送付となる。FTC ではこれまでも同様の文書を 160 以上の企業、個人へ送付している。

今回の警告文書のうち 13 通は、静脈注射、オゾン療法、免疫増強注射などの治療関連、17 通は、ビタミン、サプリメント、コロイダルシルバー、中国のハーブ療法に関連する企業、診療所、医療センターおよび医師らに向けて発行されている。

各企業は、COVID-19 を治療または予防できるというすべてのクレームを差し止め、48 時間以内に当局の懸念に対処するために取った行動について当局への通知が要求されている。